

# 令和5年度 半田市総合計画市民評価委員会 議事録

開催日時	令和5年10月16日(月)	13時00分～14時30分
開催場所	半田市役所3階 会議室304	
会議次第	<b>【議題】</b> <b>第4章 基本施策2「都市空間」</b> (1) 所管課長説明 (2) 質疑 (3) 評価	
出席委員	(副委員長) 鈴木 (座長) (委員) 桑山、榊原、沢田(貢)、岩浪 ※敬称略	
事務局	企画課長、企画課(竹之越・倉野)	
出席職員	都市計画課長、市街地整備課長、建築課長、産業課長、観光課長	
議事概要		
(1) 所管課説明	資料及び事前質問回答に基づき、説明(都市計画課長)	
(2) 質疑	<p>(副委員長)            中心市街地活性化について、どのように周知しているか。また、計画のようなものは策定しているか。</p> <p>(産業課長)            中心市街地活性化については、ホームページで発信するとともに、はんだ市報10月1日号から毎月PR記事を掲載することとし、市民の方々への周知に努めている。また、評価表に記載のとおり昨年12月より特任顧問を採用し、市のステークホルダーとも情報交換・情報共有をしている。            7月には「半田市中心市街地活性化推進方針」を示し、現在進行形で方針をベースに地域の方と一緒にブラッシュアップしているところ。中心市街地を知多半田駅前、半田駅前、運河周辺という3つにエリアを細分化し展開していくことを明記している。</p> <p>(副委員長)            イベントだけではなく、日頃から人が行き交う仕組みも作るのか。</p> <p>(産業課長)            来年度、誰が・いつ・何を、というようなアクションプランを策定予定。その前段階と</p>	

して、ワークショップを実施している。名鉄知多半田駅から JR 半田駅を繋ぐ道路（泉線）が通勤・通学のみ利用が現状である。そういった人が溜まれるような場所をつくり令和 9 年に JR 半田駅の高架化完了のタイミングを見据えて人が行き交う仕掛けづくりをし、活性化を図っていききたい。しかし、行政だけで策定しても意味がないため、地域主体で策定し、市は支援する形で仕掛けづくりをしていきたい。

（副委員長）

バス利用が令和 4 年度に増加した理由を知りたい。

（都市計画課長）

無料キャンペーン（令和 4 年 11 月～令和 5 年 2 月）の影響が大きく、日頃から利用している方に加えて、新規の利用客が増えた。令和元年度までは路線バスのネットワークを整備する中で、年々増加傾向にあったが、コロナ禍のバス離れが原因で利用者が低迷していた。

（副委員長）

無料キャンペーン以外に、タイムスケジュールを検討し変えたりはしたのか。

（都市計画課長）

無料キャンペーン以降に変更はしていない。追加資料 3 ページの地区路線バス利用状況を見ていただくと、利用者数が延びてはいるものの、路線によってはそもそもの利用者数が少なかったりする。これについては、地区でバス会を立ち上げ、利用者数の増加に向け、改善点を話し合っている。

（副委員長）

路線バスは、高齢者など移動手段がない方のためというのも理由として挙げられる。利用者が多ければいいというものでもなく、必要とする人がちゃんと利用できているということが評価にも繋がると思う。併せて調べていけると良い。

（委員）

バス利用者は明らかに増えていると感じる。現在実施中の夜間運行キャンペーンも良い取組。しかし、市外へも往来できると良いのではと思うが、例えばセントレアと往来できるなど、市外との交通網を整備する予定はあるのか。

（都市計画課長）

半田のコミュニティバスとして市外へ行けるものはない。知多乗合（株）（知多バス

運行会社) が半田常滑線を運行しているが、利用者は減少しており、原因としては、空港関連に勤務している方や学生等がコロナの影響もあり自家用車などの利用に切り替えてしまい公共交通の利用が停滞したことが考えられる。知多乗合だけでは路線の変更等はできないため、常滑市・愛知県とも連携し、住民にとって利用しやすい運行となるよう見直しを考えている。なお、市外へ行けるものとしては、武豊町のコミュニティバスが青山駅まで運行している。

(委員)

以前、半田市から東京方面へ行けるバスがあったが現在は運休している。半田市から働きかけは行っていないのか。

(都市計画課長)

JR が運行していたものだが、市から働きかけはしていない。

(委員)

路線を市外へ広げていく予定はあるか。

(都市計画課長)

バスに関して今のところはない。バスではないが、コミュニティバスの利用が少ない有脇地区では「おでかけタクシー」を実施しており、有脇地区の方が特に利用する阿久比町の飲食店に接続できるよう対応している。

(委員)

タクシーの深夜利用について、労働者不足で難しいとは聞いているが、市からタクシー会社へ働きかけはしているのか。

(都市計画課長)

タクシーについては、夜間の運転者(被雇用者)がなかなか見つからないという状況は把握しており、飲み会後にタクシーが捕まりづらくなっている。そういったときに、定時運行しているバスというのは大変助かるものと考え、夜間バスキャンペーンの実施に結びついた。

(委員)

公園といえば樹木が多いイメージがあるが、市内公園は緑が少ない気がする。他市町と比較して数値的に緑が多いとわかる資料はあるのか。

(都市計画課長)

公園の緑化に特化した比較はないが、公園の数だけでいえば 132 か所と知多半島で 1 位。公園により整備の仕方は異なるが、任坊山公園や雁宿公園など、緑が多い公園もある。

(副委員長)

パット見で緑が多いと公園を利用していなくても「身近にある」とは感じやすく、成果指標にも影響が出やすいかもしれない。また、世代によってもどのような公園が望まれているのか考え方が異なるため難しいと思う。

(都市計画課長)

公園の整備費の用途は①植栽の管理②安心・安全（修繕）のため。市内公園の遊具は、一管理をしっかりとこなっているため、他市町よりも比較的綺麗に管理ができています。また、今年度、公園を利用しやすくするため、民間からアイデアを聞くためサウンディングを始めている。先日説明会を開催し、全国から 16 社が参加された。今後、良い提案があれば民間企業と協力し、取り入れていきたい。

(委員)

任坊山公園ではマルシェを開催している。どのように開催すればいいのかわからないが、他の公園でも定期的に人で賑わうイベントが開催されると身近に感じる方が増えるのではと思う。横川地区でもおでかけタクシーを導入したとのことだが、進捗はどうか。

(都市計画課長)

横川地区でのおでかけタクシーは実証実験に向け、現在準備中である。

(委員)

景観について、電線にかかりそうな危険な街路樹が多くあるように見える。街路樹が抱えている問題や課題はあるか。

(都市計画課長)

電線については電線管理者が管理しており、管理者が危険と判断した場合は、カバーをつける等対策しているため安全面は問題ない。

街路樹は、通学路など管理を怠ると危険な状況となるため日々点検しており、今後も計画的に手入れをしていく。また、台風の接近が予想される時には、樹木自体が倒れるなどの危険性をはらんでいるため、4つの地区に分けて樹木点検を業者へ依

頼し実施している。

(委員)

緑化のための街路樹が刈られてしまい枝だけになっているのは大丈夫か。

(都市計画課長)

街路樹は剪定や雨風、公害などに強いものを選定し植えている。強く刈るときは何年か一度のものであり、計画的に行っている。

(委員)

JR 半田駅の高架下にはどういった施設が入るのか。

(市街地整備課長)

高架下活用については、JR 東海や隣接する土地所有者とも協議しながら現在検討している。

(副委員長)

追加資料の 10 ページ、主要事業評価シートの「市営住宅用途廃止事業」について、入居者がおらず老朽化が進むため実施しているのか。

(建築課長)

近隣市町と比べ、市営住宅の戸数が非常に多いという現状にあり、このままでは将来の負担が大きいため、市の規模に見合う戸数まで少なくしていこうという考えの元、実施している。

現在は君ヶ橋住宅及び長根西住宅について進めており、市営住宅を退去したあとの移転先を考慮しながら、全体の戸数を減らしている。

(副委員長)

君ヶ橋住宅、長根西住宅の廃止について、問題は生じていないのか。

(建築課長)

市営住宅の長寿命化計画を策定し、適正戸数に向け計画的に進めているため、問題は生じていない。

(副委員長)

耐用年数はどれくらいか。

(建築課長)

公共施設全体の考え方として、建設時には 50 年程度を想定していたが、長寿命化を見据え、きちんと手を入れていけば 80 年程度は支障がないということがわかっていいる。50 年を超えた建物が増えているため、長寿命化するのか、建て替えるのかを検討していく。

(副委員長)

特定空き家に指定するとどうなるか。

(建築課長)

本来、建物は所有者が取り壊すものだが、特定空き家に指定することで、市が指導や勧告ができるというもの。所有者が資金がない等の理由で取り壊しが出来ず、しかしそのままにしておくと住民に危険が及ぶような場合については、市が行政代執行により取り壊し、費用を所有者に請求する。

(副委員長)

すべてを取り壊す場合と一部を取り壊す場合があるのか。

(建築課長)

住民の危険な範囲を確認した上で、一部のみ取り壊す場合もある。

(委員)

私が住む地域でも空き家が多くあるが、特定空き家はいくつあるのか。

(建築課長)

市内の特定空き家は現在 9 件。それ以外にも、部分的に危険度が高いものは個別に対応している。

(委員)

評価表の中で 7 件の空き家を取り壊したとあり、少ないと感じた。

(建築課長)

危険な木造空き家の所有者に、取り壊し費用を上限 20 万円まで補助を行っている。この制度を利用した件数が 7 件であった。これまで、年に 10~20 件がこの補助制度を利用している。

	<p>(委員) 追加資料 1 ページの項番 3 について、具体的にどういった取組をされたか知りたい。</p> <p>(産業課長) 大学や高校の学生と日頃から協力しているが、タイの大学から建築の目線で市内を視察し、学生とも交流したいという話があった。市としては施設の説明やまちあるきの案内等のサポートを行った。</p> <p>また、今年度の商工会議所における事業では日本福祉大学、星城大学の学生たちが中心市街地活性化に関するプランの提案に向け、ワークショップ等を行いながら進めている。若い世代がまちづくりに興味をもち、参画してもらうことは大変有意義であり、将来の定住人口増加にもつながる。これからも学生がまちづくりに参画できる機会を増やしていきたいと考えている。</p> <p>(副委員長) 市営住宅について、何階建て以上はエレベーターを設置しなければならない、等の基準はないのか。</p> <p>(建築課長) 市営住宅は超高層でないため建築基準法では定められていないが、利便性などを考慮して設置している状況である。</p> <p>(委員) 移動環境の整備として、最近では新型モビリティを各地で導入しているが、半田市では導入予定はあるか。</p> <p>(都市計画課長) 今のところ予定していない。</p>
(3) 評価	<p>(委員) &lt;B 評価&gt; 山車まつり開催や中心市街地を盛り上げようという動きなどにより、まちの活性化に向けた機運が高まっていると感じ、様々な世代のアイデアやニーズを取り入れながら変革を目指そうとしている姿勢を感じた。また、地区路線バスの本数増加や小学生の運賃無料化などに取り組み、市民の移動手段の維持・確保に努めたことは多いに評価できる。バス・タクシーの乗務員確保の課題に向け、検討を重ねていただきたい。</p>



特任顧問の存在や役割についてはより一層周知していくこと、公園を身近に感じてもらうために市民が足を運びたいくなる企画をすることが必要と感じた。

(委員)

<B 評価>

単位施策ごとに、①「市街地」は、課題があるものの、これから進んでいくという期待があり A 評価とした。②「景観・公園」は、様々な取組をしているものの成果指標が C ということは何か根本的な原因があるように感じ B 評価とした。③「移動環境」は、コミュニティバスについては地域の声を聞きながら取り組めておりとても良いと思うが、路線バスの利用者数全体が伸び悩んでいることやバス・タクシーの運転者の問題など、新たな解決策が見えていないように思い C 評価とした。全体を総合的に判断し、B 評価とした。

(委員)

<A 評価>

各施策において目指すべき姿が明確に示されている。今後進めていかなければいけない点、見直すべき点もあるものの理解しており、今後実践していくための計画もわかりできており、良好に取り組んでいると判断した。移動環境について、バスやタクシーのダイヤやルート変更の際には事業者の意見も取り入れながら検討を進めていただきたい。

(委員)

<A 評価>

今後に期待。イベント等もコロナ禍前のように徐々に開催できており、また中心市街地もこれから整備されていくとのこと楽しみになっている。良い点として、バスの利用者がキャンペーンにより増加した点と、サウンディングにより利用しやすい公園を目指している点が挙げられる。特任顧問については初耳だったため、ホームページや市報など注目していく。

(副委員長)

<A 評価>

成果指標の達成度がやや低いが、都市計画及び都市整備は、整備が完了して初めて機能するものが多い。指標が達成されなくても確実に進捗している点を踏まえ A 評価とした。実践してみないとわからないことも多いが、将来を見据えてチャレンジしていると感じた。抱えている課題や達成度が低い成果指標については、原因を明確にし、現在の施策が将来に渡って機能するのか等の有効性を確認・検討していくことが



必要。バスであれば安易に利用者数のみを調べるのではなく、本当に必要としている人をどれほど支援できているのかも調べ、検討材料としていただきたい。

(副委員長)

全体としての評価は、A評価としてよろしいか。

(全員)

異議なし。

(副委員長)

最終的な評価の決定は次回 12 月 19 日の会議で行う。